

2023年1月27日

各位

会社名 株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング
代表者氏名 代表取締役 社長執行役員 畠 賢 一 郎
(コード番号：7774 東証グロース)
本店所在地 愛知県蒲郡市三谷北通6丁目209番地の1
問合せ先 執行役員 大林 正 人
電話番号 0533-66-2020 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2022年4月26日に公表した2023年3月期（2022年4月1日～2023年3月31日）の通期業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 通期業績予想数値の修正（2022年4月1日～2023年3月31日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	2,540	△389	△384	△388	△9円57銭
今回修正予想（B）	1,971	△787	△785	△789	△19円43銭
増減額（B－A）	△568	△398	△400	△400	-
増減率（%）	△22.4%	-	-	-	-
参考：前期の実績 （2022年3月期）	2,103	△498	△494	△497	△12円26銭

2. 修正の理由

売上高は、重症熱傷患者の発生が平均的な年を大きく下回ったことに加え、コロナ第7波・第8波の医療機関への影響により、計画に対して進捗が遅れています。これまでのコロナ感染拡大に比べ、第7波・第8波は重症化率が低い一方、変異株の感染力は非常に強く、医師や医療スタッフの感染により人的リソースが逼迫しました。その結果、これまで以上に、計画された手術の中止が発生したのみならず、医療機関における人手が必要な当社の再生医療等製品を用いた治療全般が敬遠・延期される影響も顕著になりました。また再生医療受託事業や研究開発支援事業においても、コロナ影響による新規顧客の獲得の遅れが生じています。

売上高の未達により営業損失が悪化するため、業績予想を修正することを決定しました。

一方、当社の将来成長を支える臨床開発品に対しては計画通りの開発費を投入し、治験を進めました。2022年4月には白斑治療を目的とする自家培養表皮（開発名：ACE02）の製造販売承認申請を行いました。また外傷に起因する変形性膝関節症への自家培養軟骨ジャックの適応拡大に向けた治験、他家（同種）培養表皮（開発名：Allo-JaCE03）の治験も、計画どおり進捗しています。

当社は、中期経営計画（5ヵ年：2022年3月期～2026年3月期）において「2024年3月期の黒字化」を掲げています。白斑治療を目的とする自家培養表皮は、2024年3月期の上市が見込まれます。また自家培養軟骨ジャック適応拡大等の治験費用が、既に発生ピークを過ぎたことから、2024年3月期に予定される当社の研究開発費総額は本年度より減少すると見込んでいます。加えて、帝人とのCDMO事業の本格化による売上増加も想定しております。以上により、「2024年3月期の黒字化」については、中期経営計画どおりに実現することが可能な状況です。

2023年3月期業績予想の主な内訳は次のとおりです。

(単位：百万円)

内訳	修正前	修正後		
	金額	金額	増減額	増減率
自家培養表皮ジェイス	1,037	818	△219	△21.1%
自家培養軟骨ジャック	485	381	△103	△21.4%
眼科領域、その他	283	196	△87	△30.7%
再生医療製品事業	1,806	1,396	△410	△22.7%
再生医療受託事業	495	373	△121	△24.6%
研究開発支援事業	238	201	△37	△15.6%
売上高	2,540	1,971	△568	△22.4%
営業利益	△389	△787	△398	-

(業績予想に関する注意事項)

上記に記載しました予想数値は、現時点において入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、状況の変化などにより上記予想数値と異なる場合があります。

以上